



公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です

 〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階
 ☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <http://www.jcancer.jp/>

主な内容	3面 「ビューティースマイルプロジェクト」開催
	4、5面 RFLJ2017 各地からのメッセージ
	6、7面 2015年度がん検診の実施状況から(子宮頸がん)

日本対がん協会、グローバルブリッジと提携し 禁煙支援のための人材育成強化へ

2年間で総計200万ドルの助成 禁煙しやすい環境整備を目指して

日本対がん協会は、2016年11月以来、国際的な禁煙推進団体「グローバルブリッジ」と提携し、禁煙支援に関わる人材育成に対する助成事業の日本側窓口として活動している。今年5月に日本での事業を国内外に公募したところ、47件の応募があり、厳正な審査の結果、16団体が助成先として内定した。助成は18年4月から2年間、助成総額は200万ドル(約2.2億円)と、1カ国の事業への助成額としては過去最大。日本対がん協会は、助成先団体間のネットワーク形成支援や専門的助言に加え、海外の助成先団体や協力機関とも連携しながら、今回の助成事業から最大成果を引き出せるよう禁煙推進活動をさらに強化していく。

グローバルブリッジは、禁煙治療プログラムで定評のある米国メイヨークリニックに拠点を置き、たばこ依存治療と、たばこ規制政策の提唱に取り組む保健医療従事者や医療機関の国際ネットワークを推進する組織として2010年に創設された。米国がん協会(ACS)の支援と、「ファイザー学習と変化のための独立助成金」を通じて、これまで世界60カ国以上で数千人以上の保健医療従事者に禁煙支援能力の習得を進めてきている。

日本には現在約2千万人の喫煙者がおり、うち7割がニコチン依存症と推計されているが、禁煙外来の受診者は喫煙者の約1%の約20万人にとどまっている。また制度上、医師と看護師しか依存症治療に携われない。

一方、日本ではコンビニや自販機で24時間365日たばこが容易に入手でき、メンソールたばこ製品などの依存性が高い製品や加熱式の新型たばこ製

品が発売され、喫煙所の設置も公費助成されるなど、喫煙者にとってはむしろ「喫煙しやすい環境」すなわち「禁煙しにくい環境」が作られている。その結果、喫煙率はこの数年間下げ止まりで、かつ、喫煙者の1割以上が新型たばこにスイッチしているという新たな課題も浮上している。

そのため、グローバルブリッジは、こうした日本の現状に即した助成事業を日本対がん協会と共同で設計。①禁煙支援に関わる幅広い職種の保健医療従事者が対応できる②地域性や経済格差などによって、十分な医療サービスが受けられない環境の喫煙者にも応じられるの2点をプログラム開発の目的とする日本国内でのプロジェクトを公募した。

助成金交付は来年4月の予定で、プロジェクトの概略は後日、日本対がん協会ホームページなどで紹介するほか、各団体の進捗状況も随時報告する

予定。また、来年9月には日本対がん協会として、助成先団体のみならず関係団体や専門家による「タバコフリーサミット2018(仮称)」を開催し、助成先団体間の情報交換、成果発表や評価を行うとともに、ネットワーク化して切れ目のない禁煙支援体制の構築を進めていく。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに開催地を禁煙にすることがIOC(国際オリンピック委員会)とWHO(世界保健機関)による国際的な合意事項となっているが、国や地方の禁煙環境の法制化ははまだ国際水準に達していない。本事業の日本側責任者である日本対がん協会の望月友美子参事は、グローバルブリッジなどの国際的な禁煙推進団体との協力を通じて日本の禁煙推進の機運をこれまで以上に高め、「2020年以降のタバコフリー社会の実現に貢献していきたい」と話している。

事務所を移転しました

日本対がん協会は11月26日から事務所を下記の場所に移転しました。電話番号とFAX番号も変わりました。

新住所: 〒104-0061

東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階

電話: 03-3541-4771

FAX: 03-3541-4783

(詳しくは3面をご覧ください)

がん相談 電話番号が変わりました

11月27日から看護師・社会福祉士による「がん相談ホットライン」の電話番号と、「医師による面接・電話相談」、社会保険労務士による「がんと就労 電話相談」の予約受付番号が変わりました。

◆がん相談ホットライン: 03-3541-7830

祝日・年末年始を除く毎日午前10時から午後6時まで

◆医師による面接・電話相談(要予約) ◆がんと就労 電話相談(要予約)

いずれも 03-3541-7835 月曜から金曜の午前10時から午後5時まで

子宮頸がん検診

30代の未受診者に自己採取HPV検査を通じて検診の受診勧奨へ 離島のモデル事業として鹿児島・奄美群島で実施

日本対がん協会は、鹿児島・奄美群島の5町村で、30代の子宮頸がん検診の未受診者を対象に、自己採取HPV検査を通じて検診の受診を勧奨するモデル事業を、鹿児島県支部(鹿児島県民総合保健センター)、千葉県支部(ちば県民保健予防財団)などとともに始めます。奄美群島では県民総合保健センターの巡回検診が子宮頸がん予防・早期発見の大きな役割を担っていますが、日数が限られ、医療機関も都市部に比べて少ないため、いつでも気軽に検診を受けられるという環境ではありません。対がん協会では両支部などとともに事業の結果を分析し、山間へき地・離島での未受診者対策として自己採取HPV検査を活用する方策を検討します。

年内に希望調査

モデル事業を始める5町村は、龍郷、瀬戸内、喜界各町と、宇検、大和両村。

過去3～5年間、各町村の子宮頸がん検診(住民検診)を受けた記録のない30代を対象に、11月から12月にかけて検診の受診を勧める手紙を送付。検診について尋ねるアンケートと自己採取HPV検査の説明・希望調査を同封し、年末までにアンケートの回答と希望の有無を返送してもらいます。

5町村における子宮頸がん検診の受診率は10～20%台。今回のモデル事業の対象となる未受診者は計約800人になると見込まれます。

自己採取HPV検査の陽性・陰性にかかわらず検診受診を勧奨

希望者には来年1月、千葉県支部から自己採取HPV検査キットを送ります。希望者が検体を採取し、千葉県支部に返送。千葉県支部で検査を行い、結果は鹿児島県支部・各町村を通じて通知します。HPV検査の希望者に費用負担はありません。

結果が陽性だった人には、5町村における鹿児島県支部の子宮頸がん検診の巡回の予定表(来年4～6月)を同封し、必ず受診するよう強く勧めます。

陰性だった人にも予定表とともに「検査は100%というわけではない」旨の説明、ならびに「これを機会に子宮頸がん検診を定期的に行うよう」勧めるチラシを同封します。

千葉県支部が「検査センター」に

このモデル事業では、検体を採取するブラシに「エバリンブラシ」を、HPV検査には「ハイブリッドキャプチャー(HC)Ⅱ」を用います。千葉県支部はHCⅡの分析機器を導入していますので、「検査センター」の役目を担ってもらうことになりました。

つまり、対がん協会グループ支部の間で自己採取HPV検査キットの送付と返送、検査、結果の通知から子宮頸がん検診(細胞診)まで、すべての運用が可能になります。今回はその試行も兼ねた事業になり、対がん協会は両支部などとともに、課題を洗い出して改善策を検討、ほかの支部との連携ができるようになります。

ハイリスクは検診未受診者 罹患の3分の1は30代

対がん協会が子宮頸がん検診の未受診者対策に注力するのは、未受診者が「子宮頸がんハイリスク」だからです。

西日本のある県のデータによりますと、子宮頸がん検診の受診者におけるがん発見率(上皮内がんを含む)を「初回」(約25000人)と「非初回」(約65000人)で比較しますと、初回は0.11%で、非初回が0.03%でした。受診しなかったり、受診間隔があいていたりして



モデル事業で用いる検体採取用の「エバリンブラシ」

る人はリスクが3～4倍高いのです。

米国では年間の子宮頸がん発症者の半数は、過去5年間に一度も検診を受けなかった1割から出ている、と報告されています。

年に子宮頸がんを患う人は上皮内がんを含め3万3114人で、うち30代が1万1692人と3分の1を占めています(いずれも推計、全国がん罹患モニタリング集計2013より)。一方で、年間に生まれる赤ちゃんの母親の年齢をみますと30代が6割。母親世代での子宮頸がん罹患が増えているのです。

出雲市での研究で一定の成果

子宮頸がんは定期的に検診を受けることでかなり予防できます。しかし、検診受診率は、国のがん対策推進基本計画が50%という目標を掲げて10年が過ぎても達成されず、70～80%という欧米諸国に比べて低いまです。

対がん協会では、島根県出雲市の協力を得て、同県立中央病院、同県環境保健公社(対がん協会島根県支部)、未来工学研究所、東大大学院医学系研究科などと未受診者対策の共同研究や、群馬県内の病院などの協力で医師採取と自己採取のHPV検査で一致率を比べる研究などを重ねてきました。

今回のモデル事業はこうした研究の積み重ねの上に企画したもので、未来工学研究所、東大大学院医学系研究科や中央大学理工学部の生物統計学教室などと一緒に進めています。

～キレイの力で元気になろう～ 「ビューティー スマイル プロジェクト」開催



キュートに変身



ポーズもばっちり

10月28日、東京・中央区の資生堂ライフクオリティービューティーセンターで、乳がん、子宮頸がんなどの女性のがん患者さんを対象にしたキレイ体験「ビューティー スマイル プロジェクト～キレイの力で元気になろう～」を開催した。色素沈着や脱毛など治療で生じる美容の悩みをお持ちの方を、プロの手で変身させようというプロジェクトが企画したこの体験会は、昨年

に続き2回目の開催で、今年は5人が参加した。まずはスタイリストと相談をして服を選び、その服に合わせたウィッグとメイクを、それぞれのプロが時間をかけて丁寧に仕立てていった。ドレスアップしてウィッグをつけ、メイクが完成した姿で参加者が順番に部屋に入ってくると、その都度スタッフから驚きと感嘆の声が上がった。参加者の方も「まるで魔法にかけられたみたい」「自分がどんどん変わっていくのが楽しかった」などと興奮した様子が見られた。

今回の参加者の方々のうち3人が家族同伴で参加したが、横で徐々に変身していく姿を見ながら、ご家族のみなさんも嬉しそうだった。時間が経つにつれ、参加者同士も打ち解けて友達



あざやかな手つきでプロがメイク

てしまったことはとても悲しいことだけど、こういうイベントに参加するという小さな一歩を踏み出すことで楽しいこともある。これからも楽しみを見つけていきたい」という感想や、「やっぱり女性として、がんになったからといって美しくいることを諦めたくない。今日は改めてその思いを強くした」という声も聞かれた。当日の様子は、ビフォーアフターが動画撮影され、参加者にプレゼントされた。

(主催：日本対がん協会・ビューティー スマイル プロジェクト実行委員会、協力：資生堂ライフクオリティービューティーセンター、(株)カネカ、HWBPヘアウェアビューティープログラム、(株)TOKIMEKU JAPAN)

日本対がん協会の新事務所



日本対がん協会が11月26日から移転した新事務所は、JR・東京メトロ・都営地下鉄新橋駅から徒歩10分、東京メトロ・都営地下鉄東銀座駅から徒歩5分、都営地下鉄築地市場駅から徒歩3分の銀座7丁目のG-7ビルディングの9階にある。

広さは493平方メートルでこれまでの1.24倍。がんサバイバークラブなどの事業拡充によるスペース拡大などが移転の要因。会長室やがん相談室など、これまで分散していた事務所を一体化した。

も打ち解けて友達になったり、メイク担当者と話が弾んで仲良くなったりと、今回のイベントが、人と人を繋ぐコミュニケーションの場にもなっていた。

「がんにかかっ



「キレイ体験」前の参加者のみなさん



華やかさに笑顔が加わって

特集

リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ) 2017 各地からのメッセージ

ごあいさつ

2017年度のリレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)は49地区で活動が繰り広げられました。ご支援、ご協力を下さいました参加者の皆様、関係者の皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。

昨年日本におけるRFLの活動が10周年を迎えましたが、今年は室蘭(北海道)、小松島(徳島)、高知、大分が10周年を迎えました。

どの地区も最初は知名度も低く、なかなか地域の方々に浸透されなかった活

動が、実行委員の皆様の長年のご尽力が実を結び、今ではすっかりチャリティ活動として溶け込んでいるようです。

一方で今年度より北上(岩手)、御茶ノ水(東京)が新たな活動地区として加わり、RFLの理念のもと募金やがん征圧、患者支援活動が繰り広げられました。

リレーイベントについては多くの地区で多くの方々が参加され、成功に終了しましたが、残念ながら今年には例年にない悪天候でリレーイベントの中止、延期を余儀なくされた地区が多かった事が挙げられます。安全面を最優先に中止を

決断された地区も後日、近隣の病院や他のイベント等でリレーイベントに飾られなかったルミナリエを展示して下さり、想いを記された方への実行委員会の皆様の配慮に敬服しております。

リレー・フォー・ライフは2日間のイベントではありません。今回のレポートではRFLJ佐賀の実行委員会の方に開催までの苦労や想いを、RFLJ東京中央の実行委員会の方には、5月にグアムで開催されたRFLに参加したことで認識を新たにされた想いをそれぞれ紹介していただきました。

リレー・フォー・ライフをご存知でない方、会場に行く事が出来なかった方は是非一読の上、活動された方々の想いを共有していただければ幸いです。リレー・フォー・ライフについて詳しくお知りになりたい方は、RFLホームページ(<http://relayforlife.jp/>)またはRFLフェイスブックをご覧ください。

今後とも「がん征圧・患者支援」チャリティ活動であるRFLJにご支援、ご協力を賜ります様お願い申し上げます。
(日本対がん協会リレー・フォー・ライフ担当マネジャー 中島盛荘)



今年度初開催となった東京御茶ノ水RFLJ

3回目のRFLJ佐賀リレーイベントを終えて

RFLJ佐賀実行委員会事務局長
森永 秀毅



みんな笑顔の参加者

まずはこの場を借りて、3回目の開催となるRFLJ2017佐賀リレーイベントを無事終了しましたことをご報告させていただくとともに、参加していただいた方・協力していただいたすべての皆様に感謝と御礼を申し上げます。

2015年、私は肺がん手術後の実父への不安を感じる日々を送っておりました。そうした中、佐賀では初めてのリレー開催のお誘いをいただき「何か役に立てれば…」くらいの気持ちで実行委員およびチーム代表として参加させていただきました。直前に福岡のリレー見学に行ったものの、開催までは不安しかありませんでしたが、いざ開催してみると多くの方の「想い」にふれる機会が数多くあり、心が震える感動を感じる大会となったことが思い出されます。

16年は2回目の開催に向け実行委員会では啓発部門を担当させていただき、さらに事務局のお手伝いもさせていただき、重責への不安の中でスタートしました。

この年の早々に父の肺がんが再発し、緩和中心への治療方針転換の承諾と家族全員での看取りと、目まぐるしく変わる状況に不安を抱えていましたが、そうした私の気持ちを楽にさせてくれたのは東京中央・福岡・山口・大分・宮崎・熊本でのリレーイベントへの参加による各地の仲間との再会と、それぞれのオリジナリティあふれるルミナリエの数々でした。

特に、父の四十九日の際に開催を知って飛び入り参加した東京中央の大会は感慨深いものがありました。

そして父の生前の記憶も鮮明な中、万感の想いで望んだ2回目の佐賀のリレーイベントでは、「I relay for…」 「想いが繋がる」「仲間・味方」「対等」「居場所」といったキーワードが24時間私の頭の中でグルグル回って止まらなくなり、ついに閉会式では50過ぎのひげ面の大男が号泣するという恥ずかしい姿をお見せするということになってしまいました。

2017年は3回目の開催に向け事務局長という肩書も加わりスタートしました。東京でのサミット&キックオフに参加させていただき、「各人の想いが繋がる・各地の想いが繋がる・来年以降に繋がる 場所と時間の提供」という大切なキーワードをいただくことができました。

また、プロジェクト未来の選考委員として関わらせていただくこともできました。寄付金の使用目的は承知しておりました



森永秀毅さん

が、詳細を知らなかった私が関わらせていただき、応募された方々のがん征圧に対する熱意や選考委員の方々の想いに触れることができたことは大きな収穫でした。個々で啓発しているだけでは達成できない、がん征圧への大きな進歩を実感することができました。

そして3回目の佐賀のリレーイベント終了。正直、私にとってリレー開催準備に毎年関ることはかなりの重責となってきていますが、できる限りずっとずっと続けていきたいことであるとも考えております。最後に、3回目の開催を終えた私にこのような内省の機会を与えていただきましたことに感謝を致します。ありがとうございました。



ルミナリエと気球

グアムのRFLに参加して

RFLJ東京中央実行委員
松原 祐子



グアムのRFLに参加したRFLJ東京中央の実行委員や現地の担当者(左から4人目が松原祐子さん)

今年5月26日、米国・グアムで開かれたリレー・フォー・ライフに、RFLJ東京中央の実行委員有志6人が参加してきました。

開催日の昼、私たちは、町で多くのRFLのトレードカラー「紫」を身に付けている人を目にしました。手に紫のリボンシール、紫のTシャツ…。私たちは、その人達に声をかけました。そして、話しかけた人すべてが「RFL」の事を知っていて様々な形で参加していたのです。認知度の高さに、まずは驚かされました。

さて、夕方よいよ会場に到着。驚くほどの人数です。参加人数は約1万人。各テントでは、料理を振舞ったり、アクセサリを売ったり…それぞれに思考を凝らしています。私たちも、関東近県のRFL実行委員の皆様から提供していただいたTシャ

ツやパーカーなどを売り、募金活動をしました。

多くが、企業ごとの参加です。それぞれの企業が社をあげて、揃いのTシャツ、横断幕、登り旗などを用意していました。従業員だけではなく、家族ぐるみの参加です。盛大に開会し最初の「サバイバーズウォーク」が始まりました。多くのサバイバー達が、ここに来て行進できることを「喜びと自信と感謝」を持って堂々と、たとえ車いすでも、たとえ介助付きでも、晴れ晴れとしてキラキラした目で行進していた姿が目焼き付いています。

また、沿道の人たちは彼らを心から尊び惜しみない声援を送り、「祝う」「立ち向かう」を体現しているかのように会場全体が一体となり大きなパワーを感じました。

そして、もう一つRFLの大きなテーマの一つ「偲ぶ」、「ルミナリエ」の時間—日本と海外の文化的背景などの差もあると思いますが、これもズシリと心を揺さぶられました。

会場中央にタワー状に積み上げられたルミナリエの灯…一つ一つに、写真や言葉が書かれています。その周囲を皆で囲み静かに「逝ってしまった人」に深く深く想いをしたためました。暖かいオレンジ色の光に包

まれたルミナリエバッグがゆらゆらと光り、それを見つめる人たち。ある人達は肩を抱き合い涙し、ある人達はバッグに貼られた大切な人の顔を見つめ、時にその顔を撫で…。参加者も、それを静かに見守り、それぞれの心でそれぞれの想いを吐く、そんな時間でした。

サバイバーズラップ、ルミナリエ…。私たちは、本質を突き詰めて来たか、経年により、形骸化、イベント化、ルーティン化していないだろうか。私達は(私は、というべきか)一介のボランティアです。出来る事と出来ない事があり、時に憤る事も多くあります。上部組織との意思疎通の問題など、なかなか難しい事も多くありますが、日本対がん協会と共に、立場が違っても大目的の「がん征圧」を目指し、何が本質で、自分はどういう立場で何をすべきか。そうした事をそれぞれがもう一度心から見つめ直し、微力かも知れないけれど与えられた使命を全うする、と言う事を心に刻んだ旅でした。



グアムのRFL会場を参考に、10月のRFLJ2017東京上野の会場でも積み上げられたルミナリエ。

2015年度グループ支部 がん検診の実施状況から ◆子宮頸がん

■全体

支部名	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精検の結果							
				がん(D)	がん疑い	CIN I (軽度)	CIN II (中等度)	CIN III			CIN I～IIIの 区分不明
								高度異形成	上皮内がん	詳細不明	
北海道	66,477	619	584	30	135	20	21	51	28	0	0
青森	40,025	874	763	7	0	220	89	48	33	0	0
岩手	45,504	760	693	8	0	121	50	31	16	3	3
宮城	111,839	1,176	1,115	7	0	410	207	54	33	0	0
秋田	20,136	145	131	0	0	34	26	17	10	0	0
山形	39,205	341	281	1	0	72	24	0	0	30	0
福島	73,350	702	638	20	3	202	110	0	0	88	1
茨城	95,384	1,802	1,559	13	0	409	154	74	26	15	3
栃木	44,105	910	811	5	0	332	104	56	14	0	0
群馬	31,851	451	415	7	0	131	45	12	13	12	2
埼玉	12,407	124	83	2	0	23	12	11	6	0	1
千葉	96,974	1,344	1,105	7	0	292	105	69	15	0	55
新潟	53,037	1,014	837	0	2	183	106	44	30	0	0
山梨	174	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野	15,780	183	140	2	0	40	20	10	4	0	0
富山	51,307	399	367	4	22	123	60	48	12	0	0
石川	17,840	250	213	1	0	82	29	10	13	0	0
福井	33,272	458	361	3	0	139	63	45	0	0	0
愛知	9,880	195	152	2	0	36	14	5	0	0	0
三重	18,614	190	163	4	0	44	11	13	1	0	2
滋賀	6,540	26	25	0	9	1	1	3	0	0	0
京都	17,876	654	0	0	0	0	0	0	0	0	0
兵庫	22,169	510	423	3	4	54	26	25	8	0	0
奈良	2,206	24	18	1	0	3	0	0	0	0	2
和歌山	2,900	11	5	0	0	3	0	1	0	0	0
鳥取	13,889	65	48	1	0	17	5	6	2	1	0
島根	9,578	298	129	0	0	28	14	6	4	0	0
岡山	28,198	279	126	0	4	38	9	9	6	1	0
広島	14,625	204	188	1	0	49	18	16	4	0	0
山口	6,168	219	66	0	0	15	3	5	2	0	1
徳島	5,174	42	26	1	0	8	6	0	0	2	0
香川	12,463	106	103	3	0	37	13	9	6	0	0
愛媛	28,426	314	284	2	0	111	31	0	0	50	0
高知	22,419	206	122	2	0	30	27	12	10	0	0
福岡	54,093	868	700	15	1	208	91	42	10	5	13
佐賀	26,308	733	588	8	73	240	81	42	17	0	0
長崎	17,470	139	128	5	3	43	15	10	5	3	0
熊本	33,538	600	465	5	0	57	38	22	29	0	0
大分	22,121	319	296	6	0	82	36	15	14	2	0
宮崎	12,858	320	293	7	0	50	18	29	1	0	0
鹿児島	63,347	528	479	7	57	114	64	1	8	41	0
沖縄	14,663	130	113	2	0	31	21	13	3	0	0
合計	1,314,190	18,532	15,036	192	313	4,132	1,767	864	383	253	83

2015年度グループ支部 がん検診の実施状況から ◆子宮頸がん

子宮頸がん 以外のがん	精検の結果			精検不要の人数 (E)	精検受診の有無を 把握していない人数 (F)	精検の結果を把握 している人数 (G)	要精検率 (E/A)	精検受診率 (C/B)	がん発見率 (D/A)	陽性反応 的中度 (D/B)	支部名
	がん以外の 疾患	異常なし	その他の結果								
3	292	4	0	65,858	35	584	0.93%	94.35%	0.05%	4.85%	北海道
2	17	165	182	39,151	111	581	2.18%	87.30%	0.02%	0.80%	青森
4	368	89	0	44,744	67	693	1.67%	91.18%	0.02%	1.05%	岩手
2	29	373	0	110,663	61	1,115	1.05%	94.81%	0.01%	0.60%	宮城
0	30	14	0	19,991	14	131	0.72%	90.34%	0.00%	0.00%	秋田
0	61	92	0	38,864	60	280	0.87%	82.40%	0.00%	0.29%	山形
12	0	41	0	72,648	64	477	0.96%	90.88%	0.03%	2.85%	福島
5	230	443	187	93,582	243	1,372	1.89%	86.51%	0.01%	0.72%	茨城
5	12	269	5	43,195	99	797	2.06%	89.12%	0.01%	0.55%	栃木
2	76	113	2	31,400	36	413	1.42%	92.02%	0.02%	1.55%	群馬
1	5	21	1	12,283	41	82	1.00%	66.94%	0.02%	1.61%	埼玉
4	171	387	0	95,630	239	1,105	1.39%	82.22%	0.01%	0.52%	千葉
3	1	222	77	52,023	177	591	1.91%	82.54%	0.00%	0.00%	新潟
-	-	-	-	174	-	-	0.00%	-	-	-	山梨
0	28	17	19	15,597	43	121	1.16%	76.50%	0.01%	1.09%	長野
3	28	67	0	50,908	32	367	0.78%	91.98%	0.01%	1.00%	富山
0	0	47	31	17,590	37	182	1.40%	85.20%	0.01%	0.40%	石川
1	65	45	0	32,814	97	361	1.38%	78.82%	0.01%	0.66%	福井
0	6	79	10	9,685	43	142	1.97%	77.95%	0.02%	1.03%	愛知
0	0	57	31	18,424	27	132	1.02%	85.79%	0.02%	2.11%	三重
0	7	4	0	6,514	1	25	0.40%	96.15%	0.00%	0.00%	滋賀
0	0	0	0	17,222	654	0	3.66%	0.00%	0.00%	0.00%	京都
0	107	140	0	21,659	87	367	2.30%	82.94%	0.01%	0.59%	兵庫
0	1	10	1	2,182	6	17	1.09%	75.00%	0.05%	4.17%	奈良
0	0	1	0	2,889	6	5	0.38%	45.45%	0.00%	0.00%	和歌山
0	3	13	0	13,824	17	48	0.47%	73.85%	0.01%	1.54%	鳥取
0	36	29	12	9,280	169	117	3.11%	43.29%	0.00%	0.00%	島根
0	30	29	0	27,919	153	126	0.99%	45.16%	0.00%	0.00%	岡山
0	17	77	6	14,421	16	182	1.39%	92.16%	0.01%	0.49%	広島
0	0	12	28	5,949	153	38	3.55%	30.14%	0.00%	0.00%	山口
0	0	2	7	5,132	16	19	0.81%	61.90%	0.02%	2.38%	徳島
0	5	30	0	12,357	3	103	0.85%	97.17%	0.02%	2.83%	香川
2	38	50	0	28,112	30	284	1.10%	90.45%	0.01%	0.64%	愛媛
2	21	2	0	22,213	84	106	0.92%	59.22%	0.01%	0.97%	高知
2	35	194	101	53,225	168	616	1.60%	80.65%	0.03%	1.73%	福岡
3	28	93	0	25,575	145	585	2.79%	80.22%	0.03%	1.09%	佐賀
4	5	35	0	17,331	11	128	0.80%	92.09%	0.03%	3.60%	長崎
4	198	112	0	32,938	135	465	1.79%	77.50%	0.01%	0.83%	熊本
5	49	87	0	21,802	23	296	1.44%	92.79%	0.03%	1.88%	大分
1	50	130	7	12,538	27	286	2.49%	91.56%	0.05%	2.19%	宮崎
0	7	180	0	62,819	49	479	0.83%	90.72%	0.01%	1.33%	鹿児島
2	6	13	22	14,533	17	91	0.89%	86.92%	0.01%	1.54%	沖縄
72	2062	3788	729	1,295,658	3,496	13,909	1.41%	81.14%	0.01%	1.04%	合計

古本で日本対がん協会に寄付ができます

読み終えた本やDVDなどを活用しませんか？

charibon by VALLE BOOKS

詳しくは「チャリボン」

<http://www.charibon.jp/partner/JCS/>

お問合せ(株式会社バリューストックス): 0120-826-295
受付時間: 10:00-21:00(月~土) 10:00-17:00(日)

シリーズがんと就労⑤

総合建設業・松下産業代表取締役社長

松下 和正さん

社内に就労支援の「駆け込み寺」



松下和正さん

「企業として当たり前のことをやっているだけです」と東京都文京区本郷にある松下産業の松下和正社長(61)が語る。従業員230人の同社は、東京都が2014年度から始めた「がん患者の治療と仕事の両立への優良な取組を行う企業表彰」で、中小企業部門「優良賞」に輝いた。シリーズ5回目は松下社長に支援体制などをうかがった。

——表彰のきっかけは、文京区から声をかけられたと聞きました。

働き方改革を目指す「ワーク・ライフ・バランス推進認定企業」という制度ができて、文京区に誘われて応募したら認定されたのです。建設業というのは残業も多いですから、認定されたのはいい機会だと2013年7月に、ヒューマンリソースセンターを立ち上げました。社員の採用から教育研修、健康管理、人事評価、子育て・介護支援、ライフプランや年金までワンストップで扱います。取締役会直下の専門部署であえてラインから外しました。

——なぜラインから外したのですか。

当社は夜間作業が多い現場もあって、人によって仕事に繁閑の差があります。平準化したくても、各部署に任せただけでは偏ってしまい、進まない恐れもある。ラインから中立の立場で監督できる部署にしたかったわけです。

続いて東京都が、がんと就労の両立を支援する企業を募集しているという新聞記事をみて応募したら優良賞です。当社で普通にやってきたことが評価されて自信が持てました。

——センター長の齋藤朋子さんのお話は先日、東京労働局が開いたセミナーでお聞きしました。過去10年間で御社のがん罹患者は11人とか。

そうです。がんと診断されて働いている社員は現在8人で、ハローワークの統計を見ても平均的です。全社員のがん検診を始めて3年、大腸がんなど毎年なにかしら見つかりますね。

——そんな時、センターのスタッフはどうするのですか。

社員から「病気になった」とか「入院する」と連絡が来たら、まず直接、本人に会って話をします。病院や家に駆けつけて、今後の見込みや業務の引き継ぎ、心配や要望をヒヤリングする。産業医や保健師に連絡して主治医との面談に同席してもらったり、がん相談支援センターの専門家と連携したり。もちろんご家族のサポートもします。会社の中に「駆け込み寺」がある感じでしょうか。家族が職場訪問するファミリーデーも好評で、なかには3世代で参加されることもあります。

——ファミリーデーはいつから。

それも都が補助金を出して2011年に始めた「東京しごとの日」に乗っただけですが、すっかり定着しました。お父さんが建設現場で職人さんに指示したりパソコンを使ったりする働きぶりを見ると、奥様や子供たちが父親の仕事を理解しますし、会社との交流ができて会社にも相談しやすくなります。

——なかなかの効果ですね。

ほか在宅勤務制度や柔軟な勤務体制もありますし、療養中の給与や職場復帰の手続き、社外の相談窓口、連携病院の紹介など安心して療養に専念できるように説明します。大事なものは

様々な仕組みをきちんと機能させることだと思います。病気や怪我で長く休んだ社員のための団体長期障害所得補償保険(GLTD)の企業負担も、実は思ったほど高くないですよ。

社員の闘病記を社内報や社内イントラネットに掲載することもあります。脳腫瘍で余命半年と宣告された社員は、安全担当として現場をまわって健康のありがたさやがん検診が大事だと説いて、3年も頑張ってくれました。

——それは説得力があるでしょうね。

自分の体験を踏まえた言葉だけに仲間が届くのだと思います。

——表彰されたことの「効果」は。

あちこちから取材を受けたり、社員がテレビに出たり。私もセミナーやシンポジウムの講師に呼ばれます。おかげで地域と連携した各地の病院や国立がん研究センターの先生など随分知り合いができました。

がんの標準治療が広がったように、がんになっても仕事を辞める必要はない。働きながら治療できることが全国に定着してほしいと思います。

——なるほど。いまの課題はなんですか。

目下、気になっているのは社員の喫煙率が平均より高いことです。禁煙外来の受診費用助成制度を利用する社員がまだまだ少ない。それに、社員だけでなく、奥様など家族のがん検診をどう進めたらいいのかわからないですね。

(聞き手 ジャーナリスト 清水弟)

株式会社松下産業 1959年創業。
オフィスビル、マンション、住宅建設から耐震・免震・制震工事、一般土木工事まで手がける総合建設業。モットーは近江商人の「三方よし」(売り手よし、買い手よし、世間よし)に「協力的会社」を加えた「四方よし」。